

西国巡礼慈悲の道

西国第三十一番

姨綺耶山

長命寺

観音さま

住職 武内隆詔

近江の観音さまは、いずれも琵琶湖に面しての立像だといわれているが、長命寺のご本尊も、御多分に洩れず、湖をみつめておられる。

本堂、内々陣、厨子内の中央に千手観音立像、向かって右側に十一面観音立像、左側に聖観音立像が安置されている。三尊とも木彫であるが平素は秘仏本尊のため容易に拝することは許されない。しかしながら此の

度、西国巡礼中興の祖・花山法皇の一千年御忌を迎えるに当たり、六十一年ぶりにご本尊千手・十一面・聖観音さまにお出ましいただいた。

中央の千手観音さまは、ふくよかななかに実に端正なお顔立ちで眉・目・口ひげなどに、かすかに墨彩がみられ、唇に朱をさしているほかに彩色をせず素地のままである。無心に祈られるその頬には血の気がさし、

鼻からかすかに呼吸がもれるようで、今にも微笑をたたえ、何かをささやかれそいうな身近な観音さまであった。

観音さまは世界のあらゆる生業なまわいを見通し、迷える人々に手をさしのべられ、苦悩を救うために、仏の世界、悟りの世界へと導いてくださる案内人の役目をしておられる。

私たちの周りには数限りない事故や災難がある。予期せぬ出来事が不意におそってくるとき、何をおいても観音さまにおすがりする。その思いは、現世にあって、喜びも、嘆き、悲しみも、私たちと共にして、人生の様々な難洪を救ってくださるといふ、庶民の暮らしの

なかに生き続けている深い観音信仰である。それ故に、私たちは観音霊場を苦難もいとわず、喜びにさえかえて巡礼するのだろう。

平成二十一年、三十一日間の結縁御開帳。数多の巡礼者が、観音さまと御縁を結ばれ、無尽の法雨に浴され、大きな慈悲の心に触れられたことであろう。



西国第三十一番

姨綺耶山

長命寺

ちようめいじ

御本尊／千手十一面聖觀世音菩薩

開闢／長寿大臣武内宿禰

開基／聖徳太子

やちとせや やなぎにながき いのちでら

はこぶあゆみの かざしなるらん

*「柳の霊木で刻んである有難い千手十一面聖觀音のご本尊さまにおすがりすれば、あらゆる苦難を救われて、健康長寿疑いなし。このご本尊さまは人生の歩みのご先達となつてと導きくださるであろう」という意味です。

観音風光

八百八の石段の先に平安の世から佇む寿命長遠の寺。琵琶湖の美しい風景が望める姨綺耶山の中腹にあり、本堂をはじめ風格のある諸伽藍が建ち並んでいます。鐘楼から望む幾重にも重なる松皮葺きの優美な曲線を見ていると、深閑とした深緑の中にひとときわ映え、その堂々とした威容が颯爽と美しく感じられます。

主な年中行事

一月一日～三日	修正会
一月十七日	初観音
二月一日	開山会
二月節分の日	節分会
三月春分の日	春季彼岸会
八月一・二日	千日会
九月秋分の日	秋季彼岸会

〒528-0808 滋賀県近江八幡市長命寺町157

TEL 0748-33-0031

納経時間 午前8時～午後4時30分

仏教用語一口解説

和顔愛語とは

この和顔愛語は『無量寿経』というお経に出てくる言葉。和顔はやわらかな笑顔、愛語はやさしい言葉のことです。つまり、笑顔で愛情のこもった言葉を話すことが大切ということです。やさしい言葉で、善意に満ちた和やかな顔と明るい姿で相手に接すれば、相手の心にやさしさを与える事が出来るでしょう。お金や物がなくても誰にでもできる施しですね。